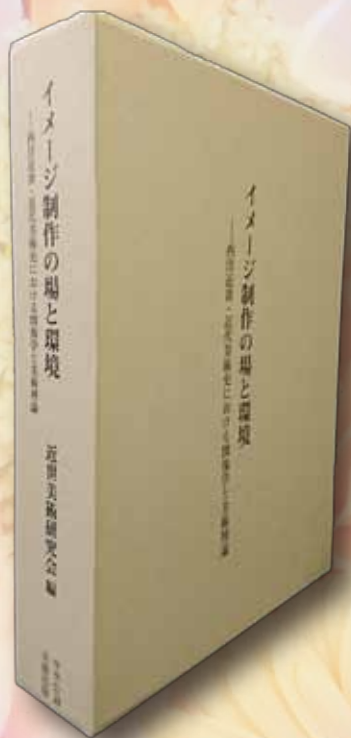


# イメージ制作の場と環境

—西洋近世・近代美術史における図像学と美術理論

近世美術研究会 編



本体価格 13,000 円+税

A5判上製函入 本文 424 頁 ISBN 978-4-8055-0862-6 C3071

言うまでもなく、日本における百年を超える西洋美術の研究史を紐解けば、そこには様々な方法論が採用され発展してきた。あるものは時代を席卷する潮流を生み、またあるものは時代の中で忘れ去られ、あるいは形を変えて新たな動きを見せてきた。美術史という、このとりわけ複雑な学問領域においては、研究を進める過程で、常にこうした方法論の検討が議論の俎上に載せられる。そのなかにあつて、本書が基本とする方法論は図像学、およびそれを実証的に支える歴史学、とりわけ出版史や宗教史、経済史といった、複合的な領域を視野においたアナル学派に通じる手法である。前者に関しては、ヴァールブルクによって打ち立てられたイメージの類型研究をよりどころに、イメージとその意味の形成過程を膨大な図像資料の収集と分類によって明らかにするものであり、後者に関しては、イメージの形成を関連する一次資料の徹底的な追究によって実証的に証明するものである。

(中略)

本書はそのタイトルを『イメージ制作の場と環境』とする。イメージ生成の過程を図像資料とテキストの分析によって明らかにすること、これが、本書の各論考に通じる共通した方法論である。

〔はしがき〕より抜粋)



日本大学、神戸大学、名古屋大学を中心に開催されてきた研究会に、慶應義塾大学、東京藝術大学を加えた近世美術研究会による5年に亘る研究会の成果として、近世・近代の西洋美術史における図像学による方法論と美術理論の研究を軸として、学術性の高い研究成果を広く世に問うことを目的に、21名の論考を収録。

目次

はしがき

I ニコラ・プッサンと近世図像学

ニコラ・プッサンの、パリ在住、二十代の青春  
―アンドレ・フェリビアン の著作『対話』を物語画制作の視点から読む

木村三郎

ニコラ・プッサンとジャン・ルメールによる共同制作  
―《父の剣を見出すテセウス》を中心に

倉持充希

ニコラ・プッサン作《ポリュフェモスのいる風景》  
―四大元素とケレスのシチリア神話

福田恭子

ニコラ・プッサンの「聖家族」  
―一六五〇年前後のフランスでのプッサン受容を手掛かりに

望月典子

プッサン作《ダフネに恋するアポロ》(一六六四年)  
―自然学的寓意をめぐって

栗田秀法

ジオルジュ・ド・ラ・トゥールの失われた原作に基づく  
《聖アレクシウスの遺体の発見》について

秋元優季

アルトドルファアの《シエーネ・マリア(美しき聖母)》と人文主義  
―フェデリコ・ズッカリ作《誹謗》を中心に

数田淳子

芸術家の庇護者としてのミネルウアとメルクリウス  
―フェデリコ・ズッカリ作《誹謗》を中心に

川上恵理

召命と否認  
―伝サラチエーニ《聖ペテロの否認》をめぐって

宮下規久朗

II 図像学の展開と美術理論

アーノルト・ハウブラーケンの『ネーデルラントの  
画家たちの大劇場』における「素描的 (tekenachtig)」

千速敏男

ゴブラン製作所とアカデミーのサロン  
―歴史画家たちの競合の舞台

小林亜起子

ジャン・シメオン・シャルダン《デッサンの勉強》と  
―画中彫刻《踵に小翼をつけるメルクリウス》  
―スウェーデン王妃ロヴィーサ・ウルリカの注文と  
―一七四八年のサロン展示をめぐって

船岡美穂子

フランス革命図像学の現在  
―恐怖政治とカリカチュア

平 正人

ピエール・ジュリアン《プッサン像》(ルーブル美術館)  
―アンシャン・レジム末期の偉人像表現をめぐって

田中 佳

フランス王政復古期の歴史図像  
―ジェラルド《アンリ四世のバリ入城》とルイ十八世のバリ入城

安室可奈子

J・M・W・ターナーとエドモンド・スペンサー  
―一八二二年出版《スペンサーの妖精の女王より》考

出羽 尚

十九世紀のグリユ・ネヴァルト批評  
―『全画派の画家たちの歴史』中のアウグスト・デミンによる記述を中心に

大杉千尋

伝ニコラ・プッサン原画の複製版画と亜欧堂田善

坂本篤史

アンリ・マティスの写真絵画不要論における写真をめぐって

打林 俊

E・パノフスキーのイコノロジー理論とその哲学的指針

小野崎康裕

あとがき  
著者略歴・主要業績

関連書籍のご案内

フランス近代の図像学

木村三郎 著

フランス近代において常に美術史の枢軸であったニコラ・プッサンを中心とした、フランス17世紀の絵画における図像表現のありかた、18世紀におけるその受容に関する研究集成。神話図像、宗教図像、歴史図像、寓意図像という視点から行った、ニコラ・プッサンの物語表現とその後代への影響を明らかにする。

本体価格 25,000 円 + 税

B5 判上製函入 本文 440 頁 2018 年 2 月刊

ISBN 978-4-8055-0850-3 C3071

ニコラ・プッサンと  
イエズス会図像の研究

木村三郎 著

画家ニコラ・プッサンの描いたイエズス会図像とフランシスコ・ザビエルに関する研究を主題に、フランス近代研究と東西交渉史という観点から、様々な手法を駆使して新知見を提示した、著者20年に亘る研究成果。

【在庫僅少】

本体価格 26,000 円 + 税

B5 判上製函入 本文 400 頁 口絵 16 頁 挿図 179 点  
2007 年 2 月刊

ISBN 978-4-8055-0537-3 C3071

ロココを織る

フランソワ・ブーシェによる  
ボーヴェ製作所のタピスリー

小林亜起子 著

ロココ時代を代表する画家であり、一世を風靡した装飾美術のデザイナーでもあったブーシェが、ボーヴェ製作所のためにデザインした6つのタピスリー連作を詳細に考察、フランスの社会史、文学史の視点を交えつつ、多彩な芸術家の新たな姿を提示する意欲作。

本体価格 15,000 円 + 税

A5 判上製函入 本文 464 頁 口絵 8 頁 2015 年 6 月刊

ISBN 978-4-8055-0739-1 C3071

お取り扱い

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798